

特集

# 女性と平和

過去に向き合えない政権は、  
国民の現実も見えない

# 福祉のひろば

8

2015



## 住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の  
立場に立って設計しています。  
お気軽にご相談下さい。

## 京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

**総合社会福祉研究所 会員のみなさまへ**

### 総合社会福祉研究所 会員のつどいのご案内

**日時：2015年8月29日(土)10時30分～**

**場所：立正大学熊谷キャンパス アカデミックキューブ**

内容＊2014 年度事業報告・決算、研究報告（社会福祉事業所の中での  
若手就労問題調査）、4名の方から報告「今、求められる研究活  
動とは、研究所に期待することとは」

※その後同会場にて、第21回社会福祉研究交流集会を開催します。

※会員のつどい・集会に関するお問い合わせは下記までお願いします。

**総合社会福祉研究所**

TEL06-6779-4894 <http://www.sosyaken.jp/>

FAX06-6779-4895 E-mail:[mail@sosyaken.jp](mailto:mail@sosyaken.jp)

おんな

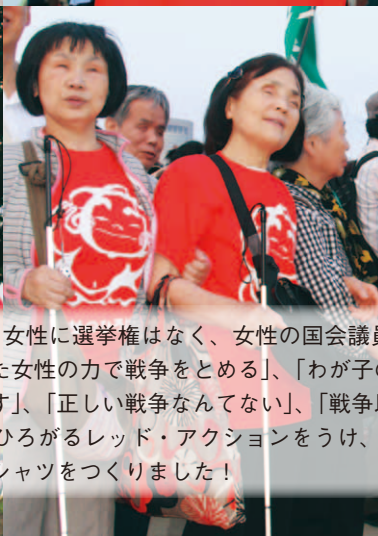
# 女をなめるな！

—— 怒りと退場の **レッド・アクション** を全国から





国際婦人年にあたる1975年、アイスランドで女性たちが地位の向上を訴え立ち上がり、5年後に初の女性大統領を誕生させる大きな運動となりました。その際、運動の象徴として女性たちがレッド・ストッキングを身につけていたことから、「レッド・ストッキング」運動と呼ばれています。6月20日（土）、この運動を模した「女の平和——国会ヒューマンチェーン」がおこなわれ、1万5000人が国会を囲みました。



「第二次世界大戦のとき、女性に選挙権はなく、女性の国会議員はいなかった。男だけで戦争を決めた。戦前になかった女性の力で戦争をとめる」、「わが子の笑顔、未来をただただ守りたいだけ、それだけなんです」、「正しい戦争なんてない」、「戦争以外の解決方法がいくらでもある」と訴えます。全国にひろがるレッド・アクションをうけ、「福祉のひろば」でも「平和——戦争法案反対！」赤Tシャツをつくりました！



国会前では連日のように戦争法案反対集会がおこなわれ、安倍政権にレッドカードをつきつける声は、全国にひろがっています。若者も、「だまったままでは殺される」「言うことを聞かせる番だ、オレたちが!」と声をあげています。

安倍政権は今国会で法案を成立させてしまおうと、9月までの国会の延長を決めました。しかしその延長は、戦争をゆるさない運動をさらに広げ、大きくし、廃案にする大きな可能性も、同時に秘めているのだと思います。

(写真・文 申佳弥)

●特集● 女性と平和——過去に向き合わない政権は、国民の現実も見ない——

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 【座談会】岩崎敏子・岸本由起子・小川美農里        | 10 |
| ハナコとタロウが考える安保法制（安全保障関連法案）と福祉 | 22 |

●サブ特集● 戦時下における強制労働

|                               |          |
|-------------------------------|----------|
| あぶり出したい「帝国の虚構」                |          |
| ——三菱金属細倉鉱山の戦時強制労働の実態          | 高見 恒憲 30 |
| 戦時体制下に起こった 名雨線工事・雨竜ダム工事の強制労働を |          |
| 「朱鞠内・笹の墓標展示館」の資料より見る          | 編集主幹 36  |

●トピックス●

|                      |         |
|----------------------|---------|
| 日本の大手介護事業者動向         |         |
| ——利用者を消費者に、そして中国進出   | 編集主幹 42 |
| 第21回社会福祉研究交流集会 in 埼玉 | 48      |
| 早川一光さん・繁澤多美さんをたずねました | 53      |

●連載●

フォーラム

|                          |            |
|--------------------------|------------|
| 入院できるベッドがなくなる？           | 相野谷安孝 56   |
| 相談室の窓から                  |            |
| S子ちゃんの心の奥にあるもの（その3）      | 青木 道忠 58   |
| ソーシャルワークの原点と息吹を感じて       |            |
| 思い通りにいきません！              | 伊藤 文人 60   |
| 育つ風景 抱っこしてほしい子どもと出会い直す   | 清水 玲子 62   |
| 「助けて！」って言ってもええねんで！       |            |
| 子どもの貧困の当事者が立ちあがった「あすのば」  | 徳丸ゆき子 64   |
| 全盲夫婦の出会いから 二人三脚のあゆみ      |            |
| 子どもの頃の思い出 絹枝（4）          | 千田勝夫・絹枝 66 |
| 映画案内 『レント』               | 吉村 英夫 68   |
| 現代の貧困を訪ねて                |            |
| 生活保護の家賃支給が引き下げられる        | 生田 武志 70   |
| なにわ銭湯見聞録（28）             |            |
| ラッキー的銭湯体験記・その三           | ラッキー植松 72  |
| いただきます！                  | 高槻温心寮 74   |
| 食べたい！ をかなえるアレンジレシピ 豚こま酢豚 |            |
| ホームレスから日本を見れば            | ありむら潜 76   |
| 花咲け！男やもめ                 | 川口モトコ 77   |

●表紙の絵●  
神門やす子



●カット●  
川本 浩

# 福島的生活から 見えてくる平和のあり方

第17代高校生平和大使 <sup>ほんだ</sup>本田 <sup>あゆみ</sup>歩さん

「あなたの福島での生活は辛く苦しいことばかりかもしれない。でも、あなたは核の被害者として、核廃絶の実現をする大きな可能性を秘めている」

これは、福島での経験を韓国の学生に伝えに行ったときに、NPO法人「世界ヒバクシャ展」の代表から言われた言葉です。この言葉を聞いて、私は自分という小さくとも大きな役割をもつ存在に誇りを感じました。そして、私はこの言葉を信じて、第一七代高校生平和大使になりました。高校生平和大使として、広島・長崎の被爆者ともつながりたいという思いから、広島での被爆者の講演会を学校で企画したり、国内・国外を問わず、積極的に「福島でなにが起きているのか」を伝える活動も行っていました。

「人間の尊厳が奪われている場所は人間の戦場である」。フォトジャーナリストの広河隆一さんの言葉です。この意味では、福島は人間の戦場だと言っても過言ではありません。ここでそれを端的に示す話を紹介します。私の母親が、福島県産の食べ物が多く使われている給食の安全性について疑問を抱き、妹にお弁当をもたせました。すると、妹のクラスメイトのみならず先生までもがその行いについて非難をしたそうです。「どうして給食を食べないの？ あなたみたいな人が風評被害を広げている」と。私の知り合いの中には、給食を食べなかったためにクラスでいじめにあった人もいます。

私がここで問題にしたいのは、福島の食べ物が安全か、否か、給食を食べないのは適切かそ



### ほんだ あゆみ

福島工業高等専門学校の4年生。第17代高校生平和大使を務める。中学2年のときに東日本大震災を経験。以来、国内・国外（韓国、スイス、アメリカなど）問わず自分の思いを発信している。福岡県筑前町主催の「平和のメッセージコンテスト2014」では最優秀賞を受賞した。

うではないかということではありません。福島では「給食を食べない」というそれだけの選択  
すらないへんな困難がともなうということです。震災前も、人々が健康にどれだけ気を使うか  
は言うまでもなく個人差があったはずで、一般に流通している野菜に関しても、あえて有機  
野菜を選ぶ人もいるというように。健康に関してどのぐらい気を配るかは、私たちの自由であ  
るというのに、その自由が福島では保障されていないように思います。こういった雰囲気の中  
で、福島と原発のこと・放射能のことはデリケートな問題とされ、人々はあえてこの問題から  
目をそらして生活をしようとしています。震災の風化は間違いなく県内でも起こっているの  
です。

私は、このような福島で起きている問題をみなさん自身の問題にしていただくべく、「ぜひ、  
自分の意見とは異なる意見をもつ隣人を尊重し、認め合いましょう」というお願いを各地でし  
ています。とくに、大多数がAだと思っていることに對してBを唱える少数派がいた際、私た  
ちは彼らを排除したり、意見が言えないように抑圧したりすることがあります。しかし、そん  
な社会は、効率的で、物事がうまくいっているように見えても、本質的には冷たく、生きづら  
いと思います。福島から学べることはまだまだたくさんあります。私は、福島の問題を平和と  
いう観点から見つめて、今後も発信していこうと思います。



特集

## 女性と平和

——過去に向き合わない政権は、国民の現実も見ない——

今特集は、大多数の憲法学者が違憲と判断する法案を議席の数で強行しようとする情勢下で、平和を守り、願ひ、そして抗<sup>こう</sup>する女性をとりあげます。サブ特集は、戦時体制下の強制労働、強制連行問題です。

森村誠一氏の小説『笹<sup>ささ</sup>の墓標<sup>ぼひょう</sup>』は、朝鮮からの強制連行・強制労働の人々と国内の強制連行の人々が、北海道のダム工事現場で働かされ、その中に奇跡的に逃れ、生き残った朝鮮からの強制労働者の姿が題材にされました。

一九四二年、朝鮮人内地移住要綱にもとづき、一九四五年の終戦までに日本へ強制連行された朝鮮の人々は八〇万人とされ、二〇%以上が北海道の開拓工事現場に送られ、過酷な労働環境で強制労働に従事し、病に倒れても満足な医療も受けず、死者は山中に埋葬されたまもなくな供養も受けられませんでした。ここから逃れた労働者が「戦争は戦闘員を殺傷するだけでなく、民間人の生命、家族、友人、仕事、地位、財産、可能性などを奪い、国土を荒らし、人間の精神を荒廃させ、遺族に長い悲嘆を残します。人類のあらゆる犯罪の中で、戦争ほど悪質で、規模が大きく、時間と場所に長く広い影響を与えるものではありません。しかも、戦争は彼<sup>ひ</sup>我<sup>が</sup>どちらにとっても犯罪であるにもかかわらず、勝者が必ず正義になります。加害者が勝利した時は加害者が正義になるのです。そんな犯罪はほ